Cisco ASR 9000 シリーズ ルータの管理イーサネット インターフェイスのコマンド

このモジュールでは、Cisco ASR 9000 シリーズ ルータで管理イーサネット インターフェイスを設定するためのコマンドライン インターフェイス（CLI）コマンドについて説明します。

- duplex（管理イーサネット），2 ページ
- interface MgmtEth，4 ページ
- mac-address（管理イーサネット），6 ページ
- speed（管理イーサネット），8 ページ

duplex（管理イーサネット）

管理イーサネット インターフェイスにデュプレックス モードの動作を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **duplex** コマンドを使用します。 インターフェイスを自動ネゴシエーションされたデュプレックス モードに戻すには、**duplex** コマンドの **no** 形式を使用します。

duplex {**full**| **half**}

no duplex

構文の説明

full	管理イーサネット インターフェイスが全二重モードで動作するように設定します。
half	管理イーサネット インターフェイスが半二重モードで動作するように設定します。

コマンド デフォルト

デュプレックス動作を自動ネゴシエーションします。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

タスク ID

タスク ID	操作
interface	read, write

例

次に、管理イーサネット インターフェイスを全二重モードで動作するように設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface MgmtEth 0/RSP0/CPU0/0
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# duplex full
```

次に、管理イーサネット インターフェイスを半二重モードで動作するように設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface MgmtEth 0/RSP0/CPU0/0
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# duplex half
```

次に、管理イーサネットインターフェイスを自動ネゴシエーションされたデュプレックスモードに戻す例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface MgmtEth 0/RSP0/CPU0/0
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# no duplex
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface MgmtEth, （4 ページ）	管理イーサネット インターフェイスでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

interface MgmtEth

管理イーサネット インターフェイスでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **interface MgmtEth** コマンドを使用します。 管理イーサネット インターフェイスの設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

interface MgmtEth *interface-path-id*

no interface MgmtEth *interface-path-id*

構文の説明

interface-path-id	物理インターフェイスまたは仮想インターフェイス。 （注） ルータに現在設定されているすべてのインターフェイスのリストを表示するには、**show interfaces** コマンドを使用します。 ルータ構文の詳細については、疑問符（**?**）オンライン ヘルプ機能を使用します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

タスク ID

タスク ID	操作
interface	read, write

例

次に、管理イーサネット インターフェイスでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface MgmtEth 0/RSP0/CPU0/0
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
duplex（管理イーサネット）, （2 ページ）	管理イーサネット インターフェイスでデュプレックス モードを設定します。
mac-address（管理イーサネット）, （6 ページ）	管理イーサネット インターフェイスの Media Access Control（MAC; メディア アクセス コントロール）レイヤ アドレスを設定します。
speed（管理イーサネット）, （8 ページ）	管理イーサネット インターフェイスの速度を設定します。

mac-address（管理イーサネット）

管理イーサネット インターフェイスの MAC 層アドレスを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **mac-address** コマンドを使用します。インターフェイスをデフォルトの MAC アドレスに戻すには、**mac-address** コマンドの **no** 形式を使用します。

mac-address *value1.value2.value3*

no mac-address

構文の説明

value1	MAC アドレスの上位 2 バイト（16 進数表記）。 範囲は 0 ～ ffff です。
value2	MAC アドレスの中間 2 バイト（16 進数表記）。 範囲は 0 ～ ffff です。
value3	MAC アドレスの下位 2 バイト（16 進数表記）。 範囲は 0 ～ ffff です。

コマンド デフォルト

デフォルトの MAC アドレスは、ハードウェア Burned-In Address（BIA; バーンドイン アドレス）から読み取られます。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

MAC アドレスは、4 桁の値が 3 つ並んだ形式になります（ドット付き 10 進数表記で 12 桁）。

タスク ID

タスク ID	操作
interface	read, write

例

次に、0/RSP0 /CPU0/0 に配置された管理イーサネット インターフェイスの MAC アドレスを設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface MgmtEth 0/RSP0/CPU0/0
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# mac-address 0001.2468.ABCD
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface MgmtEth, （4 ページ）	管理イーサネット インターフェイスでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

speed（管理イーサネット）

管理イーサネットインターフェイスの速度を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **speed** コマンドを使用します。 システムを自動ネゴシエーションされた速度に戻すには、**speed** コマンドの **no** 形式を使用します。

speed {**10**| **100**| **1000**}

no speed

構文の説明

10	インターフェイスを 10 Mbps で伝送するように設定します。
100	インターフェイスを 100 Mbps で伝送するように設定します。
1000	インターフェイスを 1000 Mbps（1 Gbps）で伝送するように設定します。

コマンド デフォルト

インターフェイスの速度は自動ネゴシエーションされます。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

（注） リンクの両端には必ず同じインターフェイス速度を設定してください。 手動で設定されたインターフェイス速度は、自動ネゴシエーションされた速度よりも優先されます。これにより、リンクの一端で設定されたインターフェイス速度がもう一端のインターフェイス速度と異なる場合、リンクが動作するのを防ぐことができます。

表 1：duplex コマンドと speed コマンドの関係，（9 ページ） は、デュプレックス モードおよび速度モードのさまざまな組み合わせに関するシステムのパフォーマンスです。 指定の **duplex** コマンドを指定の **speed** コマンドで設定すると、結果のシステム アクションが生成されます。

表 *1*：***duplex*** コマンドと ***speed*** コマンドの関係

duplex コマンド	**speed** コマンド	システムの動作
no duplex	no speed	速度とデュプレックス モードの両方を自動ネゴシエートします。
no duplex	speed 1000	強制的に 1000 Mbps（1 Gbps）および全二重になります。
no duplex	speed 100	デュプレックス モードを自動ネゴシエーションし、強制的に 100 Mbps になります。
no duplex	speed 10	デュプレックス モードを自動ネゴシエーションし、強制的に 10 Mbps になります。
duplex full	no speed	強制的に全二重に設定し、速度を自動ネゴシエーションします。
duplex full	speed 1000	強制的に 1000 Mbps（1 Gbps）および全二重になります。
duplex full	speed 100	100 Mbps および全二重を強制的に適用します。
duplex full	speed 10	10 Mbps および全二重を強制的に適用します。
duplex half	no speed	強制的に半二重に設定し、速度を自動ネゴシエーションします（10 または 100 Mbps）。
duplex half	speed 100	100 Mbps および半二重を強制的に適用します。
duplex half	speed 10	10 Mbps および半二重を強制的に適用します。

タスク ID

タスク ID	操作
interface	read, write

例

次に、管理イーサネット インターフェイスを 1 ギガビットで伝送するように設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface MgmtEth 0/RSP0/CPU0/0
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# speed 1000
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface MgmtEth, （4 ページ）	管理イーサネット インターフェイスでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。